

卒業時に求められる「実践力」

ー精神保健福祉援助実習に求められるもの 実習生からー

キーワード： ソーシャルワーク、福祉専門職、専門価値、スーパービジョン

○木下英奈¹⁾、花澤佳代²⁾、池乗桂³⁾、長谷川香織⁴⁾、田村莉奈⁵⁾、伊花美咲⁶⁾
耕房“光”¹⁾ 新潟青陵大学²⁾ 角田の里³⁾ 梨の里⁴⁾ 畑 de きっちゃん⁵⁾ スペースひなた⁶⁾

I 目的

精神保健医療福祉施策を取り巻く環境は大きく変わり、精神保健福祉士に求められる社会的役割も変化している。「実践力の高い精神保健福祉士」を養成する観点からも新カリキュラムが導入され、A大学では今年度初めての実習がスタートとなる。そこで、卒業時に求められる「実践力」ー大学卒業時の精神保健福祉士に求められている「力（知識や技術等）」を明らかにするために、精神保健福祉援助実習で実習生に求められるものを明確にする必要があると考えた。

今回は専門職としての価値・知識・技術を持ち、より実践的に学習が進められるように、実習生はどのような実習事前学習が必要か、また、求められる姿勢や知識について、精神保健福祉実習を履修した実習生を対象にアンケート・インタビューを実施し、実習生の視点から精神保健福祉援助実習に求められるものを明らかにし、課題を整理する。

II 方法

精神保健福祉実習を履修し、アンケート（平成 26 年 6 月 21 日実施・第 50 回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会/第 13 回日本精神保健福祉士学会学術集会以報告済）協力者から 3 名の実習生（4 年生）を対象に、グループインタビューを行った。調査は平成 26 年 9 月であり、インタビューの時間は 1 時間半である。

インタビューは日本社会福祉士養成校協会北海道ブロック作成実習前評価システム「実習コンピテンス・アセスメント」¹⁾（2013[平成 25 年度版]）を用い、実習生が事前学習で習得しているべき態度、知識、技術、価値は何か、学習が実習に活かされているか、分析・検討する。

倫理的配慮としては、研究内容に賛同していただいた上で、インタビュー調査についての説明と研究目的以外には使用しないこと、回答の有無で不利益にならないこと、個人が特定されないことを口頭で説明し承諾を得た。

III 結果

1. 自己の姿勢（態度）

「礼儀正しく挨拶ができること」「自身の表情（笑顔など）を意識すること」「積極的に実習に取り組む姿勢をもつこと」「自身の考えや意思を言葉にすること」

2. 知識

「各機関に関連する法制度（入院形態・年金）に関す

る知識」「疾病や障害に関する知識」「薬に関する知識」「一人暮らしを支援する上で必要な生活観」

3. 技術

「対人コミュニケーション」「傾聴を表す姿勢」「自身の気持ちをコントロールすること」「自身の考えをまとめて、相手に伝えることができること」

4. 価値

「個別性の理解」「利用者の尊重」「利用者を側面的に理解すること」「自身の価値で決めつけないこと」

精神保健福祉援助実習を行うにあたり、これらの態度、知識、技術、価値に関する事前学習を十分に行うことで様々な気づきに繋がることが明らかになった。

IV 考察

実習生は専門職として実践的な実習にするために、実習に臨む自己の姿勢（必要な態度）、知識、技術、価値に関する十分な事前学習を行い実習に臨む必要がある。実習中は積極的に学ぶ姿勢を持ち、感じ、考えたことを言葉にしなが、スーパーバイザー（実習指導者）と共有を図ることで、ソーシャルワーカーとしての価値や知識の理解を深めることにつながるだろう。

さらに、事後学習を丁寧に行い知識と体験をつなげることで、専門職として現場に就職した際に、より専門意識を持ち利用者支援をおこなうことができるソーシャルワーカーになりえるだろう。

V 結論

「実践力」とは何かを具体化し、精神保健福祉援助実習における到達点を実習生・実習受け入れ機関・教育機関の三者で確認するとともに、更なる可能性を模索する必要がある。

【参考文献】

1) 池田雅子. 社会福祉実習教育における学生の自己コンピテンス・アセスメントの活用について. 北星論集（社）. 2005 年 5 月；第 42 号.

2) 木下英奈. 精神保健福祉援助実習における実習生の力 I ～実習生からみた状況～. 日本精神保健福祉士協会誌. 2014 年 9 月 25 日；第 45 巻第 3 号

注 1) 北海道ブロック 実習前評価システム検討委員会. 実習コンピテンス・アセスメント（2013 年度版）. 日本社会福祉士養成校協会北海道ブロックが中心となり、作成された事前評価システム。本アセスメントは実習生が実習前に整え、備えなければならない準備体制を示すものである。